

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもプラス豊見城教室 4号館		公表日		令和 7年 4月 30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2	利用人数や活動内容により、室内・室外、または少人数グループ活動を使い分ける工夫をしている。	活動内容に応じた室内外の使い分けや可動式家具の導入、地域施設との連携による新たな活動スペースの確保を検討する。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8	0	シフト管理を徹底し、配置基準に沿った人員を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	4	机の配置や、目印等により、何を行う場所であるか容易に判断できるように工夫している。	死角や段差があることから、緩衝材や衝立を設置したり、積極的な声掛けを徹底する。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	活動前後における整理整頓を徹底しており、併せて消毒作業も行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	体調不良時や情緒面で切替が必要な場合は、個別の部屋にて対応している。	事務所を個別の部屋として使用しており、業務都合では使用できない場合があるため、代替え場所について検討する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	職員はキャリアプランに基づいて目標設定を行い、業務改善に努めている。また、定期的な振り返りを通じて目標の進捗を確認し、改善策を共有することで、個々の成長と業務改善を図っている。	目標達成に向けた進捗状況の確認と振り返りの頻度を増やし、業務改善図っていきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	保護者向け評価表の活用に加え、日々のコミュニケーションや意見を大切にし、保護者の意向を把握する機会を積極的に設けている。得られた意見や評価結果をもとに、業務改善に継続的に取り組んでいる。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	毎月の面談を通じて職員の意見や提案を丁寧に聞き取り、業務改善につなげている。また、職員が主体的に考え、より良い支援ができるように取り組んでいる。	職員が意見を伝えやすい環境づくりを徹底し、得られた意見が業務改善に繋がるよう、全体で検討していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	毎月開催されるこどもプラスホールディングス本部主催の研修を受講しているほか、資格取得に向けた研修等に積極的に参加している。	受講できなかった職員や、時給制職員への伝達及び研修を徹底する。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」をに基づいた支援プログラムを作成・公表している。	利用者のニーズに応じた内容を反映し、組織として適宜見直しを行いながら運用していく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	相談員や保護者と交えた会議を実施しており、職員間でも随時個別支援会議を行い、ニーズに沿った計画書を作成している。	情報共有を円滑にし、職員間の認識を統一することで、計画の質をさらに向上させていく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	会議を開き、支援に関わる職員が意見を出し合いながら検討を行っている。児童のニーズを適切に把握し、共通理解のもとで計画を作成している。	課題を常に共有し、会議で職員間の意見交換を活発に行うことで、子どもの変化や新たなニーズを迅速に把握し、計画見直しを柔軟に行っていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	放課後等デイサービス計画は職員間でしっかり共有され、計画に沿った支援が行われている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	子どもの適応行動の状況は、フォーマルなアセスメントに加え、日々の行動観察を記録し、インフォーマルなアセスメントとして活用し、確認している。	日々の行動観察は記録しているが、記録の内容が定期的に振り返られ、フォーマルなアセスメントと照らし合わせて分析される機会を増やしていく必要がある。観察結果を支援計画に反映させるプロセスをさらに強化していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	1	放課後等デイサービス計画は、ガイドラインの「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」をしっかりと反映し、子どもの支援に必要な項目が的確に設定され、その上で具体的な支援内容も明確に盛り込まれている。	支援内容は適切に設定されているが、実際の支援が計画に沿って行われているかを定期的に振り返り、必要に応じて改善していく。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	活動プログラムの立案は、チームにより、それぞれの専門性を活かして意見を出し合い、子ども一人ひとりのニーズに最適なプログラムを作成している。	意見交換を活かし、振り返りを定期的に行い、必要な改善を図っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	季節ごとのイベントを取り入れるなどして、活動プログラムの固定化を防ぎ、常に新しいアイデアを取り入れながら内容を柔軟に変更する工夫をしている。	プログラムの内容が定期的に見直される機会を増やし、職員全員が積極的にアイデアを出し合う環境を作る。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別活動と集団活動を、子どもの状況に合わせて柔軟に組み合わせることで、個々のニーズに対応した支援を実施している。支援のバランスを見極め、子どもがより効果的に成長できるよう配慮している。	活動間のバランスをより細かく調整し、個々の子どもの反応を見ながら適切な切り替えを行う仕組みが求められる。子どもの状況に応じた柔軟な対応ができるよう、職員間での情報共有をさらに強化していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	支援開始前に職員間で打ち合わせを行い、役割分担や支援内容を確認することで、支援がスムーズに進むようにしている。これにより、チーム全体がー丸となって子どもに最適な支援を提供できるよう努めている。	支援内容や役割分担の確認をより明確に行い、支援開始前に必要な情報を全員が共有できるようにしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	終礼の際、職員間でその日の支援の振り返りを行い、気づいた点や改善点を共有するとともに、不在の職員にも必要な情報を伝達している。	記録を残して不在職員にも閲覧できるようにしているが、記録の内容が迅速かつ確実に共有されるよう、よりスムーズな伝達方法を整えていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	日々の支援内容は記録し、その内容を基に検証・改善を行っている。さらに、保護者と共有することで、支援の質を向上させ、保護者との連携を深めている。	支援の検証と改善のプロセスをもっとスムーズにし、より迅速に次の支援に反映させる仕組みを強化していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的にモニタリングを行い、計画見直しの必要性を判断し、適切に対応している。	状況に応じた柔軟な見直しを徹底し、より効果的な支援ができるよう改善していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	放課後等デイサービスガイドラインに基づき、4つの基本活動をうまく組み合わせ、子ども一人ひとりに合わせた支援を提供している。	活動内容や組み合わせのバリエーションが限られている場合がある。今後は、活動の幅を広げ、より多様な支援方法を取り入れていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	自己決定を促進するために、選択肢を提供したり、こどもが自分で考え行動する機会を積極的に作っている。	選択肢の幅やタイミングをもっと広げることで、こども一人ひとりの自主性をさらに引き出せるよう工夫していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	管理者や児童発達支援管理責任者等が参加し、こどもの状況をよく理解した上で、適切な情報提供と支援方針の共有を行っている。	より詳細な情報や、こどもの状況に基づく具体的な提案を行うために、会議前に職員間での情報共有をさらに強化していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	各学校との連携を密にしており、学校からの情報を基にこどもの個別支援に活かしている。	他施設との連携はまだ十分とはいえないことから、今後は情報共有の頻度を高め、関係機関との連携を強化し、こどもの支援体制をより充実させていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	2	学校との情報共有を積極的に行い、年間計画や行事予定、こどもの下校時刻の確認などを通じて、支援内容を調整している。また、送迎時の対応やトラブル発生時の迅速な連絡調整を徹底し、円滑な連携を図っている。	タイムリーな情報共有や、連携の強化を今後は、より迅速で効率的な連携を実現するため、情報共有の方法やタイミングを見直し、改善していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	必要に応じて情報共有を行い、こどもの支援に関する相互理解を深めている。	情報交換をもっと積極的に行い、こどもの就学後の支援にスムーズに繋がれるよう連携を強化していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	6	これまで、対象児童なし。	今後卒業児が出た際には、事前に移行支援の計画を立て、情報提供をスムーズに行える体制を整えていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5	現時点、部外の児童発達支援センターとの連携は無いが、こどもプラスホールディングス本部のスーパーバイザーによる指導監督を定期的に受けている。	今後は必要に応じて連携を深め、支援の質向上に繋げていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	地域で開催されるイベントを通じて、他施設児童との交流を図っている。	独自のイベントを企画し、他施設児童との交流を積極的に実施していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	7	当法人の代表代理が参加し、協議会内容の共有を受けている。	協議会の共有により得られた情報を職員間で共有し、支援の質向上に活かしていく。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、活動の様子や発達の状況について公式LINEを通じて共有している。これにより、保護者と共通理解を持ちながら支援を進めている。	保護者との連携を一層強化し、個別のニーズに応じた情報提供を行うことで、保護者との情報共有の質を向上させていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	6	必要に応じて家族支援を行っている。	全家庭に実施できているものではないことから、今後は、家族支援プログラムや研修機会の提供を強化し、家族の対応力向上に繋げていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧に説明している。	契約時に説明しているが、今後は定期的な確認を行い、利用者が安心してサービスを利用できるようサポートを強化していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	放課後等デイサービス計画作成時には、こどもや保護者、相談員や関係機関としっかりと意見交換を行い、その意向を尊重している。	意見聴取の際、より詳細な意向確認を行うことを心掛け、こども一人ひとりに最適な支援計画を作成できるよう努めていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	支援内容について、保護者に具体的な説明を行い、納得してもらった上で同意を得ている。	説明後に保護者からのフィードバックを積極的に求め、理解度を確認する仕組みを強化していく。また、疑問点や不安点に対しても迅速に対応できる体制を整えていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	子育てに関する悩みや相談に対して、適切に応じている。面談を通じて具体的な助言を行い、必要に応じて関係機関とも連携してサポートしている。	相談内容をより深く掘り下げ、具体的な支援策を提案できるよう専門的な知識を深めていく。また、家族が気軽に相談できる環境をさらに整え、継続的にサポートしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	1	7	コロナ禍以降、父母の会や保護者会の開催、きょうだい同士の交流機会の提供はほぼ行っていない。	今後は、保護者やきょうだいが気軽に交流できる場を設け、支援体制を強化する。また、保護者同士の情報交換の場を提供し、悩みや経験を共有できる機会を作り、より良い支援を目指していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	苦情対応体制を整備しており、迅速かつ適切に対応しており、こどもや保護者に対しても周知を徹底している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	毎月のお便りの発行と、ブログによる情報発信を通じて、こどもや保護者に活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を定期的に提供している。	情報の提供方法が一方向的にならぬよう、保護者との双方向のコミュニケーションをさらに強化する必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	個人情報の保護に関するガイドラインに基づき、情報管理を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	個別のニーズに応じた方法で情報を伝達している。	保護者や児童の理解度に差があるため、今後は個別のニーズに合わせた情報提供方法を工夫し、視覚資料や児童向けの簡単な説明を取り入れ、より効果的な情報共有を進めていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	別事業所との合同行事に、地域児童を招致し、交流を図っている。	今後も、地域イベントへの参加や、事業所の行事に地域住民を招待するなど、地域とのつながりを深める活動を進めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	各マニュアルを策定し、職員や家族に周知している。これらに基づき、定期的な訓練を実施し、職員の対応力向上を図っている	マニュアルの形骸化、職員の意識差、訓練のマンネリ化などを防ぐため、マニュアルの見直しと研修、実践的な訓練、情報共有の促進を継続的に行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	地震や台風を想定した避難訓練を定期的の実施している。救助手順や避難経路を確認し、全職員と利用者が迅速に対応できる体制を整えている。	全職員の対応力を向上させるため、訓練日程を調整して参加しやすい環境を整えていく。安全性を確保するため、設備の点検や更新を定期的に行い、利用者に適した支援計画を工夫していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	2	契約時に服薬状況や予防接種、てんかん発作などを確認し、適切な支援を行う体制を整えている。さらに保護者との情報共有を徹底し、緊急時にも迅速に対応ができるよう努めている。	今後も、保護者との情報共有を徹底し、適切に対応していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	6	契約時に確認しており、該当児童の対応には特に留意している。また、日々の情報共有により、職員にも周知を徹底している。	今後も、保護者との情報共有を徹底し、適切に対応していく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	安全計画を策定し、研修や訓練を定期的の実施することで、安全管理を徹底している。また、必要な措置を講じ、利用者が安心してサービスを受けられる環境を整えている。	実践的で具体的な研修を導入し、全職員の対応力を向上させ、安全管理をさらに徹底していく。

応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	安全計画に基づく取り組み内容を家族に積極的に周知し、信頼関係を深めるための連携を強化している。これにより、子どもの安全確保に向けた協力体制を築いている。	保護者に対して、より理解度を深めてもらうよう、説明会や資料配布などを通じて、具体的かつ分かりやすく情報を伝達していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハット事案が発生した場合、その都度報告書を作成し、組織的に共有している。共有内容をもとに、再発防止のための対策を検討している。	情報共有の精度を高める取り組みを進め、事前にリスクを把握して、未然防止に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止に向け、管理者を責任者とする体制を整備している。職員に対する研修機会の確保や、具体的な対応策の策定に取り組んでいる。	虐待の未然防止を図るため、管理者を責任者とした体制を活用しながら、相談しやすい環境づくりを進める。職員が気軽に意見や懸念を共有できる仕組みを整え、組織全体でリスク軽減に努めていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	身体拘束を行う場合の基準を組織的に定め、マニュアルを作成し、適切に運用している。	今後、拘束の必要性が生じた場合は、マニュアルに基づき、人権に配慮した適切な方法で拘束を行うこととし、報告連絡を徹底する。